

2020年 年頭の辞

選ばれる大学への飛躍の年



学長 成田 健一

今年は2020年という節目の年です。東京オリンピック・パラリンピックの開催ということもあり、GWのほとんどを授業日にせざるを得ないなど、学事日程にも少なからず影響が出るようになります。学校運営という面では、「私立学校法の改正」が今年の4月から施行され、学校法人の中期計画の作成、情報公開の充実、ガバナンスの強化などが新たに求められます。これに対しては、現在法人を中心に「寄附行為の見直しを進めて頂いております。大学に関しては、改革総合支援事業で展開されてきた「プラットフォーム形成」が、ガイドラインの制定を含め、より強力に求められつつあります。これには、私学法改正

にも盛り込まれている「破綻処理」の視点も見え隠れしている気がします。大学は今、来年度からの中期計画の策定を進めています。確実に学生を成長させる大学として社会に認知されるよう、教育力の充実を中心に検討しています。本計画を完成させ、継続的なPDCAの軌道に乗せることが、今後4年間の優先課題です。 昨年は、春日部学生政策提案コンテストでの3年連続グランプリの獲得、障害者支援でのJIDF学生文化デザイン賞グランプリの受賞など、学生の活躍が続きました。社会貢献を通じて、「学んだことを社会で活かす経験」をさせるという中期計画のコンセプトにも合致する活動が広まっているのは嬉しい限りです。

昨年のビジネスプランコンテストでも「外国人ママのための住みやすい街づくり」というソーシャルビジネス的なテーマがグランプリを受賞したのも印象的なできごとでした。 また本学の学生フォーミュラの車体を、部品の大半を学生が手作りしていることを評価頂き「ものづくり」に掛けた情熱を社員に伝えるために、ホンダの研究所に展示したいというオファーを頂いたことも嬉しいニュースでした。まさに学生の成長のために愚直に取り組んできた本学の姿勢が評価されたと言えます。 実工学の学びという伝統を継承しつつ、本学の更なる飛躍の年とするために、関係各位のご支援ご協力を改めて心よりお願い申し上げます。

技術の進化と人間を見つめ



理事長 柳澤 章

2020年を迎えました。日本工業大学においては、昨年、設立50周年記念事業の多目的講義棟の運用が始まりました。後援会、工友会をはじめご支援くださいました皆様、あらためて衷心より感謝申し上げます。多目的スペースや学生が自由に利用できるスペース、また寛げる場所なども設け、より充実した学生生活を提供できるようになりました。 さらに応用化学棟が完成し、応用化学科と物理教育の新たな拠点が生じました。これで3学部6学科2コースへと展開を遂げた学部学科体制の全施設の整備が完了しました。本学園の大いなる飛躍が順調に進んでいます。

技術の進歩は留まるところを知らません。遠い将来に実現すると思われることが、今にも目の前で起こりそうな時代を迎えています。便利で快適な社会に進んでいくというように伝え方がされますが、例えば生命倫理に関わる分野をはじめとして人類の未来に大きく関わる領域にきています。 今年5G(第五世代通信)が実用化されるとのこと、IoT(物のインターネット)は身の回りの電気製品などに一気に広がっていくことが考えられます。それらが私たちの社会に何をもたらすのか人間にとって、どのような意味を持つのか、より深く考え、意識を高めることを学生の皆さんに呼びかけたいと思います。

近年、日本列島は深刻な台風被害に見舞われています。技術、工学は防災に、そして被害の最小化に、復旧・復興に十分に力を発揮できたでしょうか。土木・建築、機械装置、情報ネットワーク、物資のロジスティックス、電力確保、避難所の住空間整備などあらゆることに貢献できるものですが、重要なのは地域の特長に合致し、コミュニティが求めるものに答えることです。そうであるこそ大きく力を発揮するのです。 学生の皆さんの学びがより豊かなものとなり、社会からの期待にしっかりと応えるものとなるよう、学園は今年も、よりよい環境づくりに努めてまいります。存分に活用していただきたいと思います。

箱根登山鉄道車両

天下の険から 彩の国へ

本学は箱根登山鉄道株式会社(神奈川県小田原市)より鉄道車両を譲り受け、工業技術博物館の所蔵品として静態保存を行っている。 譲渡車両はモハ1形と呼ばれる形式で、車長14.6mの電動車である。車体の製造は1950年。改良を重ねながら70年にわたり、観光客を乗せて箱根の急斜面を疾走。7月19日に最終走行を終え、神奈川県箱根町の強羅駅構内に保管されていた。

宮代キャンパスへの陸送は、下部の台車部分と上部の車体部分に分けて実施された。台車部分は8月8日、車体部分は10月3日の深夜2時に到着。3日早朝より、工業技術博物館前に設けられた展示スペースへの設置作業が行われ、正午に完了した。 この後、12月中旬に階段等の付帯工事が完了した。機械工学系の実習で学生の教材としても活用されている。



左上：展示スペースに設置された車両 左下：強羅駅を出発するトレーラー 右：クレーンによる設置作業

Table with 2 columns: 入試種別 and 日程. It lists various entrance exams like 一般入試, センター利用入試, AO入試, etc., with their respective dates and locations.

[入試チェックポイント] ①特別入試奨学金給付! 1年目の授業料全額(98万円)、または、半額(49万円)を免除! 昨年実績34名! [一般入試A] ②入試奨学金20万円給付! 充実の奨学金制度。昨年実績294名! [一般入試とセンター利用入試の成績優秀者] ③完全インターネット出願 併願割あり! [一般入試・センター利用入試] ④全国14ヶ所試験会場 地元で受験できます [一般入試A] ⑤2月・3月に受験できます [一般入試・センター利用入試・AO入試・3月入試] ⑥各入試の詳細はそれぞれの「募集要項」でご確認ください。

本学で先端技術研究の取り組みを 社会人大学院生 募集 (日本工業大学大学院 社会人特別選抜) 大学院工学研究科 博士前期課程・博士後期課程 *環境共生システム学専攻 *機械システム工学専攻 *電子情報メディア工学専攻 *建築デザイン学専攻

Table with 5 columns: 募集回, 出願期間, 試験日, 合格発表, 入学手続締切日. It lists the recruitment schedule for the Special Graduate School of Engineering, including dates for application, exams, and enrollment.

学生自治会中央執行委員会委員長 就任挨拶

学生自治会を皆様と共に

工学部建築学科3年 若目田 陽平
(栃木県立真岡工業高等学校出身)



新年あけましておめでとうございます。

この度、第52期中央執行委員会委員長に就任いたしました。若目田陽平と申します。学生自治会は今年で52期目となり、先代方がこれまで築き上げて来た学生自治会の代表という、名誉ある役職に就く事を大変嬉しく思います。

委員会で学生自治会と共に活動を行って来た仲間からの応援もあり、晴れて中央執行委員会委員長に就任する事が出来ました。これからは学生自治会の代表として、皆様が有意義な学生生活を送れるよう、学生自治会をより良いものに変えていきます。その為、些細な事から少しずつ、皆様の意見を取り入れる事で、学生自治会をより良いものに出来ると信じ、中央執行委員会一同、努力して参ります。

最後にありますが、日本工業大学と学生自治会の一層の繁栄を祈念し、中央執行委員会委員長の就任挨拶とさせていただきます。

専門職大学院だより

何のために学ぶか

大学院技術経営研究科・教授 浪江 一公

「守破離」は茶道などの芸の道での求道者の段階を示したものである。「守」は徹底的に師からその流派の知識体系を学ぶ段階。次の「破」では、守で学んだ事を破る、すなわち学んだ流派の知識の段階を越える段階である。最後の「離」は、従来の世の中の領域を超え自らの奥義を確立する段階である。

大学という場合は、世の中では学生や院生にとって、現状ある知識を得て、それを何等かの目的に利用するための学びの場、すなわち「守」の場と位置付けられているのではない。

しかし、今、世の中の常識は加速度的に変化を続けている。10年前には、自動運転の普及はほとんどの人が考えない遠い未来のことであり、また注視されたものがドローンを「破」で言及したように

使って30分で自宅に届くなど誰も、考えていなかった。このような急速に進む世界においては、従来の学ぶ目的を大きく変えなければならぬ。学生や院生が個人単位においても、単に昔の人達が作った既存の知識体系の知識を学ぶだけ、つまり守破離の中の「守」だけでは不十分であって、上の

一見関係のないような他の世界の事にも関心を持ち、積極的に学ばなければならぬ。さらにそこに止まることなく、最終的には「離」すなわち小さなことであっても世の中にない新たな価値を生み出すことが求められる。

異論を唱える人もいるかもしれないが、私は日本人は、その辿ってきた歴史的な背景や環境ゆえか、既存の秩序を重んじ、大きな全体像より細部にこだわる傾向が強く、その分欧米や他のアジア諸国の人と比べても「離」を追求する姿勢が弱いように感じている。

大学で学ぶ人達は、今「離」を最終目標に置き学ぶことを求められている。さもなくば、他国の人達に追い越されるだけでなく、学ぶことにおいては人間に比べ遙かに高い能力を持つ人工知能やロボットに、置き換えられてしまうだろう。

「守破離」は茶道などの芸の道での求道者の段階を示したものである。「守」は徹底的に師からその流派の知識体系を学ぶ段階。次の「破」では、守で学んだ事を破る、すなわち学んだ流派の知識の段階を越える段階である。最後の「離」は、従来の世の中の領域を超え自らの奥義を確立する段階である。

大学という場合は、世の中では学生や院生にとって、現状ある知識を得て、それを何等かの目的に利用するための学びの場、すなわち「守」の場と位置付けられているのではない。

しかし、今、世の中の常識は加速度的に変化を続けている。10年前には、自動運転の普及はほとんどの人が考えない遠い未来のことであり、また注視されたものがドローンを「破」で言及したように

使って30分で自宅に届くなど誰も、考えていなかった。このような急速に進む世界においては、従来の学ぶ目的を大きく変えなければならぬ。学生や院生が個人単位においても、単に昔の人達が作った既存の知識体系の知識を学ぶだけ、つまり守破離の中の「守」だけでは不十分であって、上の

工業技術博物館講演会 平成の工作機械技術

11月22日、工業技術博物館後援会主催の特別講演会が開催された。テーマ「平成時代30年間の工作機械技術を振り返る」のシリーズ企画第一弾として、今回は工作機械の性能向上とシステム化を支えてきた工作機械の軸系・送り系とロボット

の適用技術についての講演が行われた。講演に先立ち、清水伸二館長より、このシリーズ企画の主旨と意義、本企画の成果をベースとした工作機械技術史の体系化に当たっての課題と今後の博物館の取組について紹介した。

講演では、ファナック株式会社社長の榎原伸介氏が工作機械を中核とする加工システムで活躍するロボット技術の推移について年代を追って解説し

た。続いて、日本精工の宮口和男氏が送り系で使われるボールねじの進化について説明。高橋孝治氏が軸受の進化、それらの高速化、高精度化の進展状況とその実現のために開発された各種技術について、年代を追って説明した。

本講演会は学内外から一般138名と学生79名を合わせて227名の参加を得て成功裏に終了した。学生にとってロボットは身近なテーマであり、現在のものづくりの状況を知るとともに、今後どのような活躍が期待されているかを学ぶことができ、有意義な講演会になった。

11月8日、本学が加盟しているSALA(埼玉県大学・短期大学図書館協議会)の施設見学会が予てより希望のあった本学LCセンターで開催された。SALAでは加盟図書館の中から毎年秋頃に数館が開館館となった。図書館員の意見交換会を行う「Open Library Week」を実施している。見学会もその一環であり、当日はLCセンター、多目的講義棟、工業技術博物館を見学した。

11月7日、本学との協定関係が最も長い華中科技大学(中国武漢市)の一行6名が来学した。来学の目的は柳澤理事長、成田学長への表敬訪問と本学との協定関係発展に関する協議である。

表敬訪問では記念品交換と記念写真撮影が行われた。協議会には学長、教務部長をはじめ本学の教務関係者が参加し、学生間交流や単位互換についての意見交換が行われた。協議の中で華中科技大学の馬建輝副書記は

「貴学の『実工学』の理念に大変感銘を受けた。自分たちの教育理念にも、ぜひ反映していきたい」と感想を述べた。協議後、一行は新築の応用化学棟、先端材料技術研究センター、多目的講義棟、英語教育センター、工業技術博物館を訪れ、各所で説明を聞き、積極的に質問をしていた。

夕刻から歓迎会が催され、理事長、学長、各部長等が参集し、終始和やかな雰囲気の中で意見交換、歓談が行われた。

後に届いた御礼メールには、本学に対して大変好印象を持った様子で「訪問して本当に良かった」と記されていた。

専門職大学院
オープンキャンパス
日時 2/1 (土) 13:30~17:00
会場 日本工業大学 神田キャンパス
大学院紹介、模擬授業、パネルディスカッション、懇親会などを実施します
TEL. 03-3511-7591 mot@kanda.nit.ac.jp

12月5日から7日にかけて東京ビックサイトで開催された環境・エネルギーの総合展示会「エコプロ2019」に学生環境推進委員会が出展した。毎年約16万人が来場する国内最大級の環境関連展示会であり、同委員会は毎年継続して出展している。

今回は、本学が加盟している私立大学環境保全協議会と共同でブースを運営した。会期中は学生スタッフが常駐し、本学独自の環境活動「NIT-EMS」や本学環境関連施設に関する説明パネルを展示するなど、20年にわたる本学の環境マネジメント活動の成果を紹介した。

11月7日、本学との協定関係が最も長い華中科技大学(中国武漢市)の一行6名が来学した。来学の目的は柳澤理事長、成田学長への表敬訪問と本学との協定関係発展に関する協議である。

表敬訪問では記念品交換と記念写真撮影が行われた。協議会には学長、教務部長をはじめ本学の教務関係者が参加し、学生間交流や単位互換についての意見交換が行われた。協議の中で華中科技大学の馬建輝副書記は

「貴学の『実工学』の理念に大変感銘を受けた。自分たちの教育理念にも、ぜひ反映していきたい」と感想を述べた。協議後、一行は新築の応用化学棟、先端材料技術研究センター、多目的講義棟、英語教育センター、工業技術博物館を訪れ、各所で説明を聞き、積極的に質問をしていた。

夕刻から歓迎会が催され、理事長、学長、各部長等が参集し、終始和やかな雰囲気の中で意見交換、歓談が行われた。

11月8日、本学が加盟しているSALA(埼玉県大学・短期大学図書館協議会)の施設見学会が予てより希望のあった本学LCセンターで開催された。SALAでは加盟図書館の中から毎年秋頃に数館が開館館となった。図書館員の意見交換会を行う「Open Library Week」を実施している。見学会もその一環であり、当日はLCセンター、多目的講義棟、工業技術博物館を見学した。

11月7日、本学との協定関係が最も長い華中科技大学(中国武漢市)の一行6名が来学した。来学の目的は柳澤理事長、成田学長への表敬訪問と本学との協定関係発展に関する協議である。

表敬訪問では記念品交換と記念写真撮影が行われた。協議会には学長、教務部長をはじめ本学の教務関係者が参加し、学生間交流や単位互換についての意見交換が行われた。協議の中で華中科技大学の馬建輝副書記は

「貴学の『実工学』の理念に大変感銘を受けた。自分たちの教育理念にも、ぜひ反映していきたい」と感想を述べた。協議後、一行は新築の応用化学棟、先端材料技術研究センター、多目的講義棟、英語教育センター、工業技術博物館を訪れ、各所で説明を聞き、積極的に質問をしていた。

夕刻から歓迎会が催され、理事長、学長、各部長等が参集し、終始和やかな雰囲気の中で意見交換、歓談が行われた。

後に届いた御礼メールには、本学に対して大変好印象を持った様子で「訪問して本当に良かった」と記されていた。

11月22日、工業技術博物館後援会主催の特別講演会が開催された。テーマ「平成時代30年間の工作機械技術を振り返る」のシリーズ企画第一弾として、今回は工作機械の性能向上とシステム化を支えてきた工作機械の軸系・送り系とロボット

の適用技術についての講演が行われた。講演に先立ち、清水伸二館長より、このシリーズ企画の主旨と意義、本企画の成果をベースとした工作機械技術史の体系化に当たっての課題と今後の博物館の取組について紹介した。

講演では、ファナック株式会社社長の榎原伸介氏が工作機械を中核とする加工システムで活躍するロボット技術の推移について年代を追って解説し

た。続いて、日本精工の宮口和男氏が送り系で使われるボールねじの進化について説明。高橋孝治氏が軸受の進化、それらの高速化、高精度化の進展状況とその実現のために開発された各種技術について、年代を追って説明した。

本講演会は学内外から一般138名と学生79名を合わせて227名の参加を得て成功裏に終了した。学生にとってロボットは身近なテーマであり、現在のものづくりの状況を知るとともに、今後どのような活躍が期待されているかを学ぶことができ、有意義な講演会になった。

12月5日から7日にかけて東京ビックサイトで開催された環境・エネルギーの総合展示会「エコプロ2019」に学生環境推進委員会が出展した。毎年約16万人が来場する国内最大級の環境関連展示会であり、同委員会は毎年継続して出展している。

今回は、本学が加盟している私立大学環境保全協議会と共同でブースを運営した。会期中は学生スタッフが常駐し、本学独自の環境活動「NIT-EMS」や本学環境関連施設に関する説明パネルを展示するなど、20年にわたる本学の環境マネジメント活動の成果を紹介した。

11月8日、本学が加盟しているSALA(埼玉県大学・短期大学図書館協議会)の施設見学会が予てより希望のあった本学LCセンターで開催された。SALAでは加盟図書館の中から毎年秋頃に数館が開館館となった。図書館員の意見交換会を行う「Open Library Week」を実施している。見学会もその一環であり、当日はLCセンター、多目的講義棟、工業技術博物館を見学した。

11月7日、本学との協定関係が最も長い華中科技大学(中国武漢市)の一行6名が来学した。来学の目的は柳澤理事長、成田学長への表敬訪問と本学との協定関係発展に関する協議である。

表敬訪問では記念品交換と記念写真撮影が行われた。協議会には学長、教務部長をはじめ本学の教務関係者が参加し、学生間交流や単位互換についての意見交換が行われた。協議の中で華中科技大学の馬建輝副書記は

「貴学の『実工学』の理念に大変感銘を受けた。自分たちの教育理念にも、ぜひ反映していきたい」と感想を述べた。協議後、一行は新築の応用化学棟、先端材料技術研究センター、多目的講義棟、英語教育センター、工業技術博物館を訪れ、各所で説明を聞き、積極的に質問をしていた。

夕刻から歓迎会が催され、理事長、学長、各部長等が参集し、終始和やかな雰囲気の中で意見交換、歓談が行われた。

第14回学生ビジネスプランコンテスト

社会問題解決に挑む提案が多数入賞

11月5日、過去最多となる430件の応募の中からファイナリストに選ばれた9組がプレゼンテーションを行った。グランプリとなる学長賞には村越玲奈さんの「外国人ママのための住みやすい街づくり」が選ばれた。観覧者の投票で決定する「オーディエンス賞」は、上記の村越さんのプランと舟山善貴さんの「振り込め詐欺から身を守るグローバル対応型『話者認識アプリ』」が同時受賞となった。

当日は株式会社UCHIDAの内田社長による特別講演も催され、観覧した多くの学生が炭素繊維強化プラスチックを用いて数々の新製品へ挑戦するストーリーに耳を傾けた。

当日は株式会社UCHIDAの内田社長による特別講演も催され、観覧した多くの学生が炭素繊維強化プラスチックを用いて数々の新製品へ挑戦するストーリーに耳を傾けた。



| 賞 | 氏名(代表) | 共同応募者 | プラン名 |
|----------------|----------------|-----------------|-----------------------------------|
| 学長賞 | 村越 玲奈 | 村田 大陸 | 外国人ママのための住みやすい街づくり |
| NITEC埼玉産学交流会賞 | 川島 史也 | 門前 光佑 | 「三方よし」で学生を応援!! 地産地消の健康朝ごはん食堂 |
| 川口信用金庫賞 | 舟山 善貴 | 王 俊松 | 振り込め詐欺から身を守るグローバル対応型『話者認識アプリ』 |
| 宮代町長賞 | 飯屋 謙吾 | 山内 一輝 | 農作物の栽培を補助するリアルタイム水分計 |
| 杉戸町長賞 | 清水 秀隆 | | 地域密着型の買い物支援プラットフォーム |
| 審査員特別賞 | 大村 崇太 倉持 和樹 | | 農業引退世代を活用した人材派遣 |
| 産学連携起業教育センター長賞 | 川島 大樹 | | 「ジジ・ババチューバー&マゴチューバーになろう!」 |
| 優秀賞 | 谷田部 峻 | | ジム×アスレチックの次世代型フィットネスパーク |
| | 近藤 佑衣 | | ママ不足はパパが救う!! |
| 奨励賞 | 染谷 優太 | | カーボンオフセットの売買サイト |
| | 高橋 秀一 | | 誰でもラクラク!簡単に高さを変えられる物干し竿 |
| | 大塚 海都 | | 工業の技術を学ぶ為のオンラインテキスト ~T-Connect~ |
| | 杉林 広理 | | ハイアマチュア向け家庭菜園IoTデバイス |
| 努力賞 | 藤原 知也 | | 犬用の薬を包めるジャーキー |
| | 小久保 将岳 | | 無添加燻製料理の移動販売事業 |
| | 中静 知陽 | | 折って貼るだけペーパークラフト |
| | 長野 颯歩 | 岡嶋 隆人 高橋 黎 | 小学生を対象としたSNS教材の開発 ~ 次世代情報モラルの育成 ~ |
| | 田中 大輔 | 荒井 悠斗 | VRを使用した(新築)設計・内見 |
| | 三澤 俊也 | 生沼 龍樹 | MaaS Door【移動の次世代型プラットフォームアプリ】 |
| | 山本 達也 | 荒木 信彦 小野木 慎也 | ロボット初心者向け!学習・大会用ロボットの販売 |

日本工学教育協会 講演発表賞 小学校教員のための プログラミング教育



情報メディア工学科の大橋裕太郎准教授が9月6日、日本工学教育協会の講演発表賞を受賞した。受賞論文名は「プログラミング講座がもたらす小学校教員のプログラミング教育に対する意識への影響」。

2020年度から小学校でプログラミング教育が全面実施されるが、教員研修が十分に行われておらず、教員の多くが不安を抱えている。本研究では、小学校教員を対象としたプログラミング講座を開講し、教員の意識変化に関する調査を行った。現状を理解し対策を講じることで、プログラミング教

日本建築学会 若手優秀発表賞 国産材にこだわった 高強度耐力壁の開発

建築デザイン学専攻博士前期課程2年(那須研 究室)の加藤大喜さんが10月17日、日本建築学会の賞向上に繋がると期待されている。本賞は、聴講者ならびに座長の投票結果の上位が同委員会にて審議され、口頭発表277件から4件が選ばれた。投票者からは「分析が良くできていた」「研究内容も興味深く、発表のまとめ方も見事」と評された。



大会学術講演木質構造部門の若手優秀発表賞を受賞した。受賞題目は「国産の枠組材と合板を用いた高強度耐力壁の開発・その2次元内せん断試験による耐力壁の検証」。本研究では、建築物に

用いられる耐力壁の耐震安全性の更なる向上を目指している。建築基準法で定められた耐力壁の上限(壁倍率5倍)に対し、その2倍の高耐力(壁倍率10倍)を国産材のみで実現しようという取り組みである。本研究は農林水産省の産の枠組材と合板を用いた高強度耐力壁の開発・その2次元内せん断試験による耐力壁の検証。本研究では、建築物に

電子情報通信学会 3分野の研究・ ワークショップで受賞

電気電子工学科、電子情報メディア工学専攻の平栗研究室、木村研究室に所属する学生が電子情報通信学会の各研究会において表彰を受けた(下表)。その中でもユニークな研究を紹介する。

品分野と工学など異なる分野が連携し、かつスピーディーな研究開発成果が期待されている。

電気電子工学科、電子情報メディア工学専攻の平栗研究室、木村研究室に所属する学生が電子情報通信学会の各研究会において表彰を受けた(下表)。その中でもユニークな研究を紹介する。

品分野と工学など異なる分野が連携し、かつスピーディーな研究開発成果が期待されている。

NHK厚生文化事業団 ニューウェーブ賞 公共トイレの ハンドブックを提案

建築学科生活環境デザインコースの野口祐子教授が12月7日、NHK厚生文化事業団「第3回認知症とともに生きるまち大賞のニューウェーブ賞(特別賞)」を受賞した。「公共トイレハンドブック」を作成し、理解を促める活動をしていることが高く評価された。「トイレのカギを開けられなくなった」「水を流そうとして間違っって非常ボタンを押した」など、認知症の人が公共トイレを利用する際のトラブルは多い。これを解決するため、当人や家族へのインタビューをもとに「公共トイレハンドブック」を作成。事例の多い実話を漫画で紹介し、トイレ設計上の提案などについて図解を用いてわかり



「公共トイレハンドブック」を作成。事例の多い実話を漫画で紹介し、トイレ設計上の提案などについて図解を用いてわかり

国家技能検定試験 技術者の登竜門 成績優秀者で3名表彰

8月30日、10月4日に「第27回彩の国職業能力開発促進大会」技能者表彰式において、臼井さん、坂本さん、石井さんの3名が技能検定成績優秀者として、埼玉県知事、職業能力開発協会会長の連名による表彰を受けた。本賞は実技と学科の両方に優れた成績を残した者に与えられ、本学の目指す実工学の学びを体現した成果といえる。この技能検定では課題を時間内に製作する実技試験、機械工学の知識を問う学科試験が課せられる。合格するためには、

実技の習熟と学科試験に備えた豊富な専門知識が必要となる。受検者は春休みを返上して2月から準備に入り、新学期となる4月以降は過密な授業時間を縫い、実技試験対策として20個以上の及ぶ課題の製作練習、学科試験対策として過去

8月30日、10月4日に「第27回彩の国職業能力開発促進大会」技能者表彰式において、臼井さん、坂本さん、石井さんの3名が技能検定成績優秀者として、埼玉県知事、職業能力開発協会会長の連名による表彰を受けた。本賞は実技と学科の両方に優れた成績を残した者に与えられ、本学の目指す実工学の学びを体現した成果といえる。この技能検定では課題を時間内に製作する実技試験、機械工学の知識を問う学科試験が課せられる。合格するためには、

実技の習熟と学科試験に備えた豊富な専門知識が必要となる。受検者は春休みを返上して2月から準備に入り、新学期となる4月以降は過密な授業時間を縫い、実技試験対策として20個以上の及ぶ課題の製作練習、学科試験対策として過去



普通旋盤2級合格者 (10月4日)
①杉本 里駆さん ②臼井 健祐さん ③坂本 雅和さん
普通旋盤3級合格者 (8月30日)
④石井 ひろみさん

| 賞名 | 所属・学年 | 受賞者名 | 受賞論文名 |
|-------------------------------------|-----------|---------|---|
| コミュニケーションクオリティ学生ワークショップ (9月5日) | | | |
| 優秀ポスター賞 | E専攻D2年(H) | ①木山 潤 | 複数経路によるスループット抑制制御におけるネットワーク混雑の検討 |
| | E専攻D1年(H) | ②黒沢 啓人 | 機械学習を用いた客観通信品質推定手法の検討 |
| | E科4年(H) | ③駒澤 雅哉人 | LED光の異なる波長成分によるミニトマトの生育への影響 |
| 非線形ワークショップ2019 (9月5日) | | | |
| 優秀ポスター発表賞 | E専攻M2年(H) | ④星野 祐希 | 音圧刺激によるシタケ増産効果の調査 |
| | E専攻M2年(K) | ⑤宇戸 龍 | 異なる興味度を用いた情報拡散の調査 |
| | E科4年(K) | ⑥鈴木 紗衣 | Community structure in social and biological networks |
| 革新的無線通信技術に関する横断型研究会MIKA2019 (10月4日) | | | |
| 最優秀ポスター賞シニア部門 | E科教授(H) | ⑦平栗 健史 | ドローンメッシュネットワークのための3次元シミュレーターの開発 |
| ポスター賞若手部門 | E科4年(H) | ⑧飯田 浩史 | 実環境の背景トラフィックを想定した無線LANにおけるQoEに基づくSVCを用いたマルチキャスト伝送速度制御 |
| | E科4年(H) | ⑨林 泰成 | ドローンネットワークにおける協調伝送方式の誤り率変化に対する評価 |

E科=電気電子工学科 E専攻=電子情報メディア工学専攻 M=博士前期課程 D=博士後期課程 (H)=平栗研究室 (K)=木村研究室

杉戸町役場敷地内の屋外喫煙所を提案



趣のある佇まいで、来庁者にも好評

本学と包括的連携協定を締結している埼玉県杉戸町の役場敷地内に、本学学生の設計による屋外喫煙所が設置された。本事業は健康増進法の一部改正にあわせて同町から依頼を受け、建築学科木造建築工場の授業の一環として、学生4チームから設計案が提案された。6月22日にプレゼンテーションが実施され、町関係者と本学教員による審査を経て最終案を決定。実施設計の原案として採用された。

施工作業にも同工房の学生が参加。9月9日に上棟式、10月26日に竣工式が執り行われ、運用開始となった。式では古谷松雄町長より、学生に感謝状が贈呈された。

第19回ホームカミングデー

139名のOBがキャンパスの変貌に驚嘆

今回は11月2日に大学と工友会の共催で開催。卒業生、元・現教職員、工友会奨学生など212名が参加した。午前中の学内見学ツアーで卒業生たちはLCセンター、多目的講義棟などを巡り、変貌す

るキャンパスの姿に感慨を深めた。ダイニングホールで行われた懇親会は恒例の参加者全員による記念撮影、奨学生の紹介、抽選会と続き、全員の校歌斉唱で締めくくられた。



ホームカミングデー



VR(仮想現実)ゲーム体験コーナー

10月26日から10日間にわたって、世界最大の古書街ともいわれる神田神保町にて「神田古本祭り」が行われた。会場に位置する本学神田キャンパスでは前年同様、1階のPRスペースを無料休憩所を兼ねた本学の展示・イベントスペースとして一般公開した。

同スペースは本年度にリノベーションを行い、扉を全面開放出来るようになった結果、多くの来場者が無料の振る舞いコーナーの香りに誘われ、休憩をしながら本学のパネルやパンフレットを手に取っていた。学生が制作したVRゲーム体験や、親子ものづくり教室の「トコトコサギを作ろう」は今回も好評で、期間中、延べ3000名余が来場した。

神田校舎PRスペース 古本祭りでイベント実施

10月26日から10日間にわたって、世界最大の古書街ともいわれる神田神保町にて「神田古本祭り」が行われた。会場に位置する本学神田キャンパスでは前年同様、1階のPRスペースを無料休憩所を兼ねた本学の展示・イベントスペースとして一般公開した。

同スペースは本年度にリノベーションを行い、扉を全面開放出来るようになった結果、多くの来場者が無料の振る舞いコーナーの香りに誘われ、休憩をしながら本学のパネルやパンフレットを手に取っていた。学生が制作したVRゲーム体験や、親子ものづくり教室の「トコトコサギを作ろう」は今回も好評で、期間中、延べ3000名余が来場した。

地元宮代町民に 研究成果を楽しく紹介



フォーミュラ工房のブースでは車両を展示

地元宮代町主催のイベント「トウアコフェスティバル」が11月16日に開催された。メイン会場、情報メディア工学科石原研究室、建築学科三坂研究室が展示。ロボットショーや住宅模型の展示、映像合成体験など研究成果を分かりやすく紹介し、子供たちにも好評であった。期間中、全体来場者約1万3000人の進修館小ホールに本学展示ブースが設けられ、フォーミュラ工房、ロボティクス学科中里研究室、情報メディア工学科石原研究室、建築学科三坂研究室が展示。ロボットショーや住宅模型の展示、映像合成体験など研究成果を分かりやすく紹介し、子供たちにも好評であった。期間中、全体来場者約1万3000人が来場した。

5号館の愛称を学内公募

5号館(多目的講義棟)は本学設立50周年記念建設事業として2018年12月25日に竣工、昨

「ラーニング・キューブ」に決定

年4月から本格的に運用されている。18年度から導入されたクォータ科目、累進的教育プログラム(成果)によって5号館は連日、自主学習に取り組む多くの学生に活用され、教育の中心施設として機能している。

この5号館に親しんでもらうため、この度、愛称の学内公募を行った。学生・教職員から106件の応募があり、学内審査により「ラーニング・キューブ」に決定。12月5日に授賞式が執り行われた。今後はさらなるPRのため、サイン設置なども計画されている。



ラーニング・キューブ(5号館)外観

のうち、約300人が本学ブースを訪れた。このほか、学生環境推進委員などの学生がボラティアスタッフとして多数参加。参加者の一人は「大学での学びとは違う、良い経験になった」と話した。

7色に光るNITロゴオブジェ

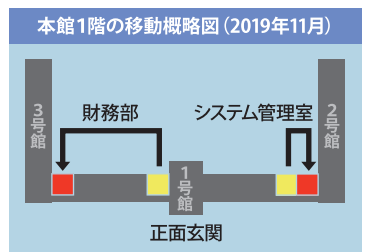
大学設立50周年を記念して後援会から寄贈されたNITロゴのFRP製オブジェが9月30日、多目的講義棟前に設置された。夜間には7色にライトアップされ、「インスタ映える」と学生たちにも好評である。



事務部門の再配置計画

学生サービスの向上と業務の効率化を目的として、宮代キャンパスの本館(1・3号館)では事務部門の再配置計画が進められている。

第1段階として10月末に財務部、システム管理室とその関連部署の移動が完了(下図参照)。今後は学生支援課、教育研究推進室などの移動が計画されている。併せて、各部署出入口扉のガラス



大学入試センター試験 本学で実施

大学入試センター試験が1月18日・19日の両日にわたって実施される予定で、本学は試験会場となっている。前日17日から当日にかけて、関係者以外キャンパスへの立入りが制限される。

この得点を合否判定に利用するセンター利用入試を実施する(一面下部参照)。成績優秀者には入試奨学金20万円が給付される。募集要項、インターネット出願は本学ウェブサイトで確認いただきたい。

国外出張

- ◆辻村泰寛教授(情報メディア工学科) / 出張先 中国(10/31~11/2) / 目的 2020年度協定校入試実施のため
- ◆黒津高行教授(建築学科) / 出張先 台湾(11/11~11/15) / 目的 台湾市中西区における戦後住宅の水泥花格磚についての現地調査
- ◆神林靖准教授(情報メディア工学科) / 出張先 台湾(11/19~11/23) / 目的 機械学習と知的システム国際会議にて招待講演
- ◆二ノ宮進一教授(機械工学科) / 出張先 タイ(11/19~11/25) / 目的 2019年IEE通信ネットワークとアプリケーションに関する現地調査
- ◆吉野秀明教授(電気電子通信工学科) / 出張先 ニュージーランド(11/25~11/30) / 目的 2019年IEE通信ネットワークとアプリケーションに関する国際会議にて研究発表
- ◆二ノ宮進一教授(機械工学科) / 出張先 台湾(11/28~12/2) / 目的 導電性ダイヤモンドの研究に関する調査・企業視察
- ◆松浦隆文准教授(情報メディア工学科) / 出張先 マレーシア(12/1~12/7) / 目的 2019年非線形理論とその応用に関する国際会議での研究発表
- ◆木村貴幸准教授(電気電子通信工学科) / 出張先 マレーシア(12/1~12/8) / 目的 同上
- ◆吉野秀明教授(電気電子通信工学科) / 出張先 アメリカ(12/8~12/15) / 目的 2019

宮代町より
222号



LGBTについて考える

私たちの性は生物学的な性だけでなく、心の性、好きになる性、見た目の性など様々な性。性のあり方で悩んでいる人も多くいます。性について一緒に考えてみませんか?

【日時】1月25日(土)

14時~15時30分
【場所】コミュニティセンター進修館
【費用】無料※申込不要

【講師】遠藤まめた氏(LGBTユースの居場所)にじいず代表
【問合】宮代町人権推進室34-1111内線210
【主催】宮代町男女共同参画社会推進会議、宮代町

編集後記

▼輝かしい新春を迎え、皆さんにとって希望に満ち溢れた年になられることを祈念する▼新年にあたり、故郷紫西也氏の言葉を贈りたい。彼は朝日新聞に入社後朝日ジャーナル編集長を経てニユースキャスターとしても活躍した。ご記憶の方もあろう▼おのれを顧みる能力、出来るだけ客体として眺めようとする意志が亡くなった時、人も国もまことに危ういままに現在の世情を予知する言えよう▼自分自身を、自分の所作を常に顧みることが出来る人は尊敬に値する。だが凡人にはなかなか出来ることではない。しかしながら結果的に出来なくとも、そうしたいという意志を持つべきではないだろうか▼いつもの自分の置かれた立場を他者の眼で客観的に見られないいわば眼が曇ってきたら、危険信号が灯ったことになるから▼毎日三度、自分を反省する三省を思い起こさせる卓見と言えらる▼【信